

生徒国際イノベーションフォーラム2020への参加を中心とするエージェンシーの育成

ISN2.0による新しい学び研究委員会

活動の目的

ISN2.0 (OECD日本イノベーションスクールネットワーク)の研究チームに参画しOECDが推進するラーニングフレームワークの鍵となるエージェンシーの育成を目指し、新しい学びのモデル開発に取り組む。本活動により、学習者はOECDの推進するラーニングフレームの鍵となるコンピテンシーである「エージェンシー」(自ら考え、主体的に行動して、責任をもって社会変革を実現していく力)を獲得することができる。

それにより変化の激しい社会を生き抜く力を身につけながら、主体的に社会の課題解決に関わり、よりよい未来の実現に向かって積極的に行動することのできる人間を育てることを目的とする。

活動の内容及び経過

本校の総合的な探究の時間での活動を中心に、生徒自らが課題を発見、解決していける力を身につけるための活動を基盤として、OECDが推進するEducation2030の学びの枠組(ラーニングフレームワーク)を意識した、生徒の資質・能力の涵養につながる実践研究を行った。校内では、地域課題を知り、フィールドワーク等を通してその解決に向けての提案を行う探究学習活動を行い、主体性や考察力、コミュニケーション力を養った。夏と冬には校内で成果発表を全員が行い、相互にフィードバックを行った。また、外部の発表会やコンテストにも積極的に参加することで、客観的な評価を得ることができた。教員はこれらの活動に対する指導・助言や側面的支援を行いながら、国の機関や地域行政、大学、企業など校外の教育力の活用について、研鑽を積むことで、よりよい学びのモデルを研究・開発することにつながった。

活動の成果・効果

コロナ禍での全国一斉休校や、行事の中止や延期が相次ぐ中、急速に広まったオンラインのプラットフォームを活用して、活動を継続し、一定の成果を上げることができた。本事業のメインであったISN2.0の主催する生徒国際イノベーションフォーラム京都大会は中止となり、オンライン開催に変更されたが、その中で、複数の生徒が企画及び運営段階から関わった。特に、8/11,12に行われた同フォーラムのオンラインライブトークでは、日本を含む世界各地から約300名の高校生を中心とした参加者があり、本校も10名が発表を行った他、英語で総合司会を務める生徒が出るなど、エージェンシーを発揮する場となった。上記の活動を通して、主体性やコミュニケーション力の涵養のみな

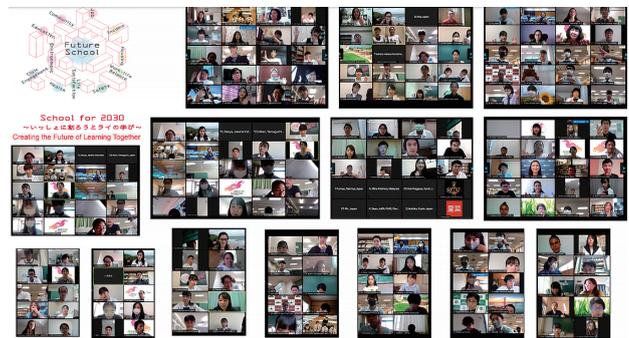


オンラインフィールドワーク



地域の方を囲む会

生徒国際イノベーションフォーラム総合司会



生徒国際イノベーションフォーラム(zoom)

らず、自己肯定感や自己有用感の向上にもつながり、生徒の成長や行動変容を促す原動力となった。

今後の課題と問題点

コロナ禍によって、予定していた事業が実施できなくなり、実践的な体験や研究の場が失われたことで、目的が十分に達成されなかった面は否めない。急速に普及したオンラインによる代替的な種々の事業も、目的や目標を完全に代替できるものにはならないため、苦慮している。一方で、オンラインならではの長である、地理的条件の平等さと参加者の関係のフラット化によって、コミュニケーションのハードルが下がったことも新しい体験であった。

次年度の状況も見通しが立ちにくいいため、さらなる工夫や改善の努力によって、少しでも当初の目的や目標に近づけるよう努めたい。

- 代表者：乙部憲彦 ●所在地：岡山市東区瀬戸町光明谷
- TEL：086-952-1031 ●E-MAIL：seto@pref.okayama.jp
- URL：http://www.seto.okayama-c.ed.jp/
- 設立年：2019年 ●メンバー数：7名